

## 在日ブラジル人学校

### 問題点

#### 必要性

- ① 将来帰国する家族・児童生徒も居るし、異国にいても子女にそのルーツである「母国文化の教育」を施したいと思う保護者が居る。
- ② 学業の遅れ、いじめ、異文化になじめず、落ちこぼれ、不登校になる子どもの受け皿としての役割を担うよう、こどもたちに選択肢が必要。

#### 望まれる支援

- ① 公的／私的資金援助  
学校への支援のみならず、子どもへの支援も(このために「子どもの権利条約」に基づく施策の実行が求められる)
  - ② 学校法人化へのハードル低減(多くの県で緩和を図っているが一部は依然ハードルが高い)
  - ③ 公共スペースの利用の門戸開放
  - ④ 日本語教員の公的資金による派遣
  - ⑤ 定期検診の実施
  - ⑥ 臨床心理士など専門家の派遣とケア
- など

#### 就学実態

AEBJ(学校協議会)加入校が半分ほどで実態は掘っていない

#### 経営状況

- ① 経営基盤が脆弱で施設も不十分
- ② 学校法人でないため公共の施設が使用不可または優遇措置なし  
学割不適用、消費税負担あり etc  
但し、この一年の間に各種学校として認可された学校が増加。

#### 教育

- ① 無資格教員多し  
→ マグロソ連邦大学／東海大学の遠隔教育による 教員養成コースがスタート(2009年7月)
- ② 日本語教育が不十分

#### その他

- ① 健康診断不徹底
- ② 学習障害へのケアが出来ていない

### 不就学または日本語の遅れによる問題

・ダブルミッドとなると表現手段を持ってなくなり児童の心理発達に問題が起こる

・高校への進学が出来ず将来設計に大きく影響を与える

## 在日ブラジル人学校 ⇄ 公立学校

### 公立学校受入れの問題点

- ・学力や日本語能力等に関係なく年齢に応じた学年に就学させている
- ・15歳を超えればい中学校への入学が認められない

### 格差社会に新たな底層をつくらないためには

#### 再チャレンジの機会をつくること

(既に通達が出されているものもあるがその徹底を！)

- ① 年齢に関係なく学力に応じた学年に入れる(文科省からは通達が出ているがその徹底を)
- ② 15歳を超えても中学での学習を認めること
- ③ 在籍が短くとも卒業資格を与え、高校受験の扉を開く
- ④ 外国人学校の中学程度終了の場合には高校受験を認めること

#### 更に:

- ① 夜間中学校の創設(集住地区に不足:夜間である必要は無い)
- ② 中学校卒業程度認定試験の見直し
  - ・年間複数回の開催
  - ・試験科目の削減
  - ・日本語能力試験(例)2級取得者の国語試験免除
  - ・問題文(含「注意事項」)のオールルビ化

### 再チャレンジの機会を作る

尚、就学援助制度の周知徹底が図られていないケースや、あっても年度途中での適用が出来ない場合もあるのでより柔軟な対応が求められる。

(上記を支えるには)

### 国／県の施策・制度の整備が不可欠

日本が批准した「国際人権条約」「子どもの権利条約」の意思に沿って、日本に暮らすすべての子どもの「教育を受ける権利」の保障  
教育基本法、学校教育法、教育職員免許法など関連する法律の改正

#### 義務教育化の必要性

(施策実施の為の予算措置及び実態把握の実施には確たるベースが必要)

## 公立学校

### 問題点

#### 不就学調査

- ① 対象となる児童生徒総数把握が困難

#### 「日本語指導を必要とする外国…」調査

- ① 判定基準の不統一
  - ・判定者は年少者JSLの専門家ではない
  - ・基準があいまい
- ② 自治体により調査対象が異なる
  - ・滞在2年以上は外す
  - ・人数枠の問題で国際クラスを出されたら外す etc.

#### 専門的指導者不足

- ・年少者JSL知識経験がない人が多く、十分にあるベテランの教師は多忙で、ノウハウ蓄積、引き継ぎの時間がない。年少者JSL教育養成の機会がない。
  - ① 加配教員
    - ・自分の専門外で力を発揮出来ず
    - ・日本語指導など経験不足
    - ・滞留短くKnow-How蓄積できず
  - ② 講師・ボランティア
    - ・待遇悪い・研修の権利なし
    - ・学校によっては講師・ボランティアは孤立
    - ・インフラ不整備(コピー機、パソコン、プリンターなどの使用制限があるケースが多い)
- ・教材でも良いものはできているが、単発的で他に広がらない。

#### その他の事項

- ① 学習障害への配慮  
AD/HD LD、多動、アスペルガーなどの障害及び環境の変化による一時的障害等への配慮が必要
- ② 就学前の日本語学習  
一年生入学時点での遅れを取り戻すことは大変に難しい。入学前から適切な年少者JSLを
- ④ 母語・継承語教育

### なすべきこと

#### 就学状況調査(施策策定のベース)

- ① 公立校／外国人学校／家庭での一斉調査が必要
- ② 第三者による調査

#### 「日本語指導を…」の判定基準の統一化

- ① BICS/CALPの理解(\*Remarks参照)
- ② Toolの統一化  
バンドスケール、語彙力調査、OBC、TOAM…  
多くの方式があるが何が使われるのか…
- ③ 専門的判定者(テスター)の養成・登用  
\*但し、テストは万能ではない  
テストの結果により簡単に日本語指導を修了にすることが無いように保護者と担任の教師との面談重視  
尚、学力の判定(プレースメントテスト)は日本語のみならず母語・継承語でも行う必要がある。

#### 教育・学習のペースの作成

- ① 児童生徒のReadiness、経験にあわせたシラバス(JSLカリキュラムを現場に則して見直しを)  
外国にルーツを持つ年少者日本語教育には認知心理学や発達心理学など学際的な協力体制が不可欠。  
また、出身国の教育システム・指導要領などの分析も不可欠。
- ② 教科書のルビふり、リライト教科書作成(埼玉県教育委員会方式など参考に)  
→ 教科書会社へ協力要請

#### 専門家の養成・配置

- ① 専門家の養成・配置(Remarks参照)  
国語教師に年少者JSLの研修  
日本語検定経験者にJSLの研修など  
\*教職に日本語科の設置
- ② アドバイザーの配置(Remarks参照)  
・一定地域に外国人教育専門のアドバイザーを配置し、教員の指導、アドバイスと  
・同時にリソースセンターの役割を果たす

#### 環境整備

- ① 学校上げての支援体制の構築
- ② 講師・ボランティアの待遇改善  
賃金、研修の権利など
- ③ インフラ整備

## 制度

### 都道府県に於ける教育の一元管理

教育委員会(公立学校)・私学振興課(私立学校・各種学校)・国際課(外国人学校)の一元管理の徹底  
幼保一元化に外国人経営の託児所も念頭に入れる

## 意識

### 多文化共生社会への全国的な認識

### Remarks:

- 1) 対象の児童生徒の定義：外国人児童生徒でなく帰化者及び(片親が外国にルーツを持つ場合の)日本人児童生徒であっても「外国にルーツを持つ児童生徒」として対象とすべき
  - 2) 子どもの人権、人間として当然の権利という基本的なスタンスが必要  
子どもたちを「日本語が分からない邪魔者であり、どのようにして邪魔でない存在にするか」というようなスタンスは物事の基本的解決につながらない。
- 尚、現在の問題は親の失職が大きな要素となっていることは自明の理であるが、今回は「児童生徒の教育」にのみ着目する。  
「労働者としての受け入れ」「移民としての受け入れ」更にはその前提となる「どのような国に向かって進めるのか」という議論は、同時並行的に議論をして行く必要があることを付言しておきたい。

#### 専門家養成案(即時的解決)

- ① 現在活躍中の講師に技量に応じて資格を与える  
(新資格制度 → 待遇も改善)
- ② 下記の候補者に年少者JSLの研修を行う
  - ・国語免許取得者・小学校免許取得者・420時間日本語教師養成講座終了者
  - ・大学の日本語学科修了者

#### 長期的観点

- ① 教育職員免許法の種類に「日本語」を加える  
但し、出身国の文化に応じた教授が必要であり指導要領は柔軟でなければかえって動き辛くなる恐れもあり
- ② 教員養成課程に年少者JSLを加える

#### アドバイザーの役割期待

- ① ボランティアの自発性を推進
- ② 学習者とボランティアを組み合わせる(マッチング)
- ③ 教室の雰囲気作り、教室全体のまとまりの形成
- ④ 教材や指導法についての助言
- ⑤ 必要に応じた研修の実施
- ⑥ 学習者の生活相談への対応
- ⑦ ボランティアの相談に乗る
- ⑧ 地域社会、行政機関、学校、企業などとの協力関係作り
- ⑨ 多様な機関・領域とのネットワークの形成

#### 必要な資質と能力

- ① 日本語教育の関連領域に関する知識と実践力
- ② 平明・的確な日本語で伝える言語運用能力
- ③ ネットワークを構築する力
- ④ 判断力と実践力

(\*)

BICS:生活言語能力  
basic interpersonal  
communicative skills  
CALP:学習言語能力  
cognitive academic  
language proficiency.